平成３０年度　高志中学校卒業式　式辞

第２回高志中学校「卒業証書授与式」に当たり、福井県副知事の藤田穣様、ＰＴＡ会長、加藤光顕様をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、このように盛大に卒業生の皆さんを祝福できることは、大きな喜びであります。卒業生はもとより、教職員、在校生を代表しまして、心からお礼申し上げます。

ただ今、９０名の皆さんに、卒業証書を授与いたしました。保護者の皆様には、お子様が卒業の日を迎えられ、さぞ、お喜びのことと存じます。教職員を代表し、心からお祝い申し上げますとともに、これまで、本校にお寄せいただきました、ご理解とご協力に対し、深く感謝を申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。平成２８年４月７日、この体育館で入学式を行い、早３年が過ぎました。その入学式で窪田裕行校長から送られたメッセージを覚えているでしょうか。入学にあたり、これからの学校生活で心に留めてほしいことを２つお話になりました。

一つ目は、皆さんが「地域の子」であることを忘れないでほしい、ということでした。

自分たちの地域を離れて、高志中学校に通うことになるからこそ、生まれ育った地域とのつながりを大切にし、家族や地域の方々、友達とのつながりを、皆さんの側から保っていく努力をしてほしい。さらに将来、国内や世界、どこで活躍することになっても、常にふるさとを思い、支える人になることを期待している、とお伝えになりました。

二つ目は、「高志中学校の生徒」である誇りをもって過ごしてほしい、ということでした。

誇りをもって学校生活を送るためには、行動が伴わなければなりません。高志中学校の生徒らしい姿とは何か、誇りをもって学校生活を送るとはどんな行動をすることか、自分なりの考えをもって実践してほしいと、お伝えになりました。

そして、一期生の先輩に追いつき追い越す勢いで、９０人が９０通りの夢に向かって学び、友達と交流し、楽しく学校生活を送ってくれることを期待している、との力強いエールも送って頂きました。

卒業の日を迎え、これまでの３年間を振り返り、皆さんは「地域、即ち、福井の子」であるということ、「高志中学校の生徒」である誇りを、どのように体現してきたでしょうか。１期生の背中を見て歩むことができた一方で、１期生を基準にして比較されたり、１期生以上の成果を期待されたりと、２期生ならではのプレッシャー、やりにくさがありながらも、しっかりと成長してきた姿を私は見てきました。

今年度の前期生徒会では、高校生となった一期生を招いた意見交換会や、上級生による１年生への学習質問会など、縦のつながりを活かした新たな企画を、皆さんの手で次々に実現しました。後期生徒会では、ホームページに「生徒会日記」のコーナーを新たに設け、中学生の生の声を直接紹介する活動をスタートさせました。さらに新年度は、皆さんが動かし始めた、先輩や後輩との関係づくりの流れを拡大するため、新たに小学生対象の授業見学会を行うことにしました。中学生の発案と行動によって、高校と中学校の共同企画に留まらず、中学生と小学生の交流活動へと拡大しています。さらに、２月に行われた高校の前期生徒会の役員選挙では、会長候補者から「中学生との交流を促進する」との公約が示されました。

２期生の皆さんは、１期生とともに、高志中学校の歴史を切り拓き、築き上げてきました。この歴史・文化・校風は、しっかりと後輩たちによって受け継がれるだけでなく、さらに、高校生をも変化させ始めたのです。中高一貫校としてのさらなる成長の可能性を強く感じています。

４月から新しい道がスタートします。高校生としての学校生活は、皆さんにとって大きな境遇の変化になるでしょう。とは言え、中学生と同じように高校生の皆さんにも、あらゆるチャンスが公平・公正に与えられます。社会に出ると、競争や制約の中で、限られた者しかチャレンジの権利は得られないので、チャレンジできる機会が公平・公正に確保されているのは、中学生や高校生の特権と言えるでしょう。しかし、皆さんはチャレンジできる数々のチャンスを、見逃しはていないでしょうか。特権の上に、ともするとあぐらをかいてはいないでしょうか。

高校生が卒業した後、空っぽになったある教室に入ってみました。実は、その教室は、私が高校入学後、最初の１年間を過ごした思い出の場所でした。正面の黒板の上に、ある言葉が掲げられていました。

「負けるもんか。頑張っていればいつか報われる。持ち続けていれば夢はかなう。そんなのは幻想だ。たいてい、努力は報われない。たいてい、夢はかなわない。そんなこと、現実の世の中ではよくあることだ。けれど、それがどうした。スタートはそこからだ。新しいことをやれば必ずしくじる。腹が立つ。だから、寝る時間、食う時間を惜しんで、何度でもやる。さあ、昨日までの自分を超えろ。」

目の前のチャンスを活かしてチャレンジするかどうかは皆さん次第です。高校に進むと、皆さん一人ひとりの夢を実現するためのプログラムが用意されています。しかし、どのような道が用意されていようとも、その道を進もうとする強い意志が自分自身になければ前進しません。やらない理由を見つけて、自分に言い訳するか。とりあえずやってみて、失敗して後悔するか。チャンスを活かす一歩を、自分を成長させる一歩を、恐れることなく踏み出してほしいと思います。どんなに小さくてもいいので、まず一歩踏み出してみてください。

また、その一歩を踏み出す時、自分の能力はこの辺りと、ラインを決め付けないでください。目標や進め方を自分で決めることができる場合には、自分のペースでスケジュールを考えて進めることができます。しかし、集団や組織の中で活動していると、時として、周囲の事情によって、大きな課題・難しい問題を担わざるを得ないことがあります。この逆境を、重荷を背負わされた不幸なことと受け止めず、成長のチャンスと捉え、ぶち当たってみてください。巨大な壁の前で必死にもがいてみてください。努力が報われず、期待した結果・成果が得られないかもしれませんが、限界だと思い込んでいたラインは、いつの間にか限界ではなくなっています。「自分には到底無理」「どうせやっても失敗するから」と逃避するのは簡単です。どうすれば上手くいく可能性があるか考えて、立ち向かってみてください。まずは、第一歩から。そして、狙いが定まったら、その実現に向けて自分の限界に挑戦し、「克己」を体現してほしいと思います。

皆さんの活躍のステージは、いよいよ高校へとステップアップします。そこで大いにチャレンジし、失敗や成功を積み重ねて、やがて出て行くことになる大海原＝社会で活躍する力を培うことを祈っております。

卒業生の皆さん、中学１～２年生、ご来賓や保護者の皆様、そして中学・高校の先生方、お集まりの全ての方々が、高志中学校、高志高校、そして福井県の未来を切り拓き、新たな時代を築くイノベータとして、挑戦し続けることを切に願い、式辞といたします。

平成３１年３月２２日

福井県立高志中学校長　　山川満寛